

男たちの  
男たちによる  
男たちのための

# 基地

## メンズ・シェッド

50才以上の男性が  
生きがい、やりがい、  
楽しみを求めて  
集う集団

327名が在籍するオーストラリア最大規模のシェッド

30年ほど前に、オーストラリアで生まれた「男たちの居場所=メンズ・シェッド」。現在は世界10カ国で約10万人が活動しています。札幌市での設置を支援する北海道大学大学院保健科学研究院講師の高島理沙さんにお話を聞きました。

### 海外で広まったメンズ・シェッド

メンズ・シェッドとは、主に退職者が集まり、ものづくりをしたり、地域社会の支援をする小さなコミュニティです。木工作業、ガーデニング、絵を描く、フィットネス、楽器演奏、旅行、福祉などひとつのシェッドで多数のグループ活動が行われています。

メンズ・シェッドができた1990年代のオーストラリアは、不況のあおりを受け、行き場を失った男性であふれています。その居場所の一つとして広まり、今では定年<sup>\*</sup>を考えたらまずは「自分に合ったシェッドを探す」というくらい、一般的になっています。政府の後押しもあり、1200以上と増えたシェッドでは、シニア世代の男性がイキイキと活動しています。

\*海外では65歳定年の概念がなく、仕事を辞める時期は自分で判断する

### どのような仕組みですか？

誰かにお膳立てしてもらって通う、スポーツジムや講座ではなく、あくまでも「自主運営・自主管理」する居場所です。町内会などでも代表・副代表・会計などの役職を設けて活動していると思いますが、シェッドでは運営費を稼ぐための「補助金担当」や、

近隣住民とのトラブルを避けるための「地域担当」など、皆さん何かしらの役割を担っています。また活動する際に一番大切なことは、集まったメンバー全員に発言してもらうこと。そして出してもらった意見については、平等に尊重することを原則とされています。



シェッド内部の木工場。補助金で工具等を購入し、運営費を稼ぐために腕を磨いて木工品を販売している



各シェッドごとに目的や活動内容が設置され、ブリッセンのあるシェッドでは「男性が安心して集い、建設的な活動に参加することで、社会的・実用的に時間を過ごすこと」とうたっている

### 札幌でメンズシェッドが誕生！

2023年に札幌市西区西野での「メンズ・シェッド」開設にむけ、準備委員会が発足されました。何度も話し合いを重ね、2024年1月には会員を募るために集会を開き、現在は41名が入会。4月から国内で2カ所目となる「メンズ・シェッド」の活動がスタートしました。

札幌市で孤立孤独をテーマにしたインタビュー調査を行いました。その中で特徴的だったのが「企業戦士、会社人間としての価値観が強かった時代を生き抜いた方が『退職』されたことで『埋まらない何か』を求めていること」でした。今後「メンズ・シェッド」がその「何か」を埋められるカギになればよいなと思っています。

札幌市西区の「男たちの基地」



札幌メンズシェッド  
「ポッケコタン」  
会員募集中！

問合せ pokke.kotan@gmail.com



メンズ・シェッドについてはこちら

問合せ risa-t@hs.hokudai.ac.jp